

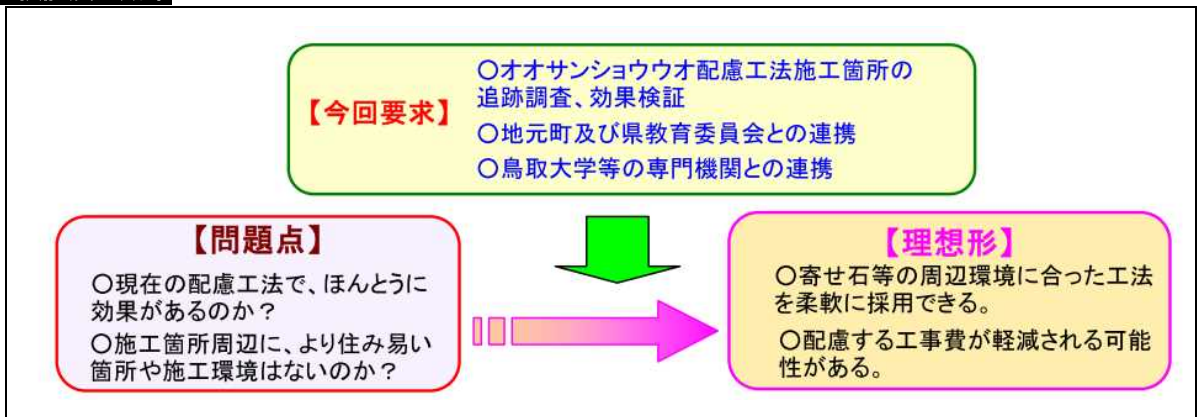
**1 事業の目的・背景**

特別天然記念物オオサンショウウオ生息エリアにおいて公共工事を実施する場合、文化財保護の観点から該当町教育委員会と協議を行い、その生息環境に配慮した工法を採用している。しかし、配慮工法としてオオサンショウウオ配慮ブロックを一律に採用していることで、工事費が割高になっている。又、工事完了後の効果検証が行われていないことで、採用工法が妥当かどうかの検証ができていない。一部専門家からは、もっと工事箇所周辺を調査することで、生息環境に合い安価な工法が提案できるのではないかと、意見をいただいている。

八頭管内は深い谷地形に沿って生活道路が存在していることで、今後もオオサンショウウオ生息域での道路改良工事を避けることはできない状況にある。

このような現状において、今後オオサンショウウオ配慮工法を採用する場合に、周辺環境に適合し経済的な工法選定が可能になる資料作成を目指して、調査検討を行うことを目的とする。

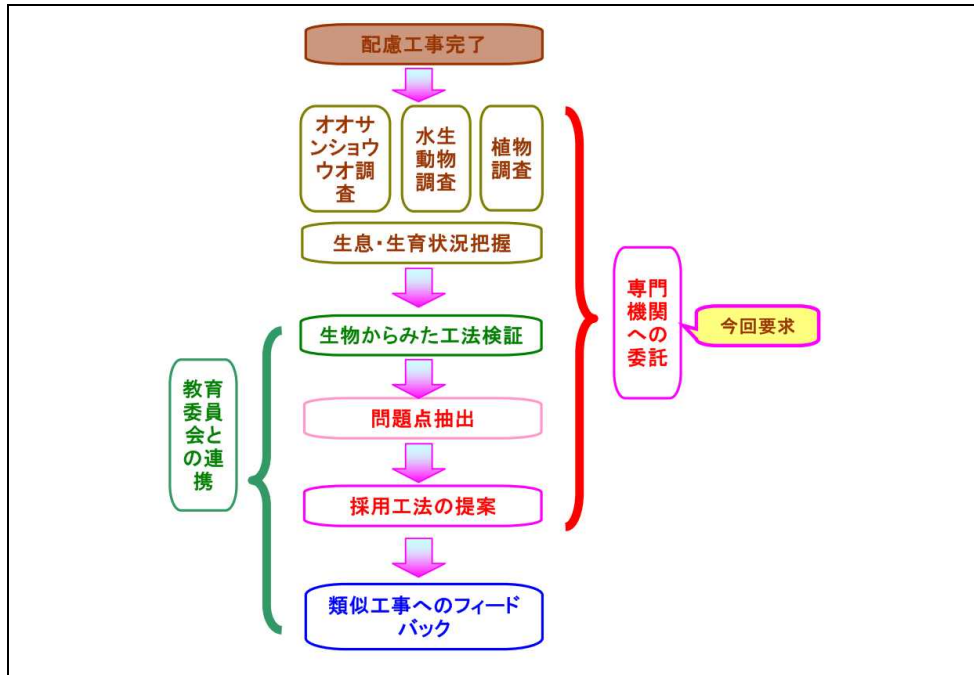
**2 調査・検証及び効果**



**3 工法の比較 (オオサンショウウオ配慮工法と提案工法)**

【配慮工法】	【提案工法】
<p>オオサンショウウオ配慮型ブロック</p>	<p>寄せ石 (巨石)</p>
<p>ブロック表にオオサンショウウオなどの生物の出入りする穴が開いている</p>	<p>コンクリートブロック積の手前に巨石、転石を積んで、生物の住み家とする</p>

#### 4 関係機関及び専門家との連携・調査の流れ



#### 5 調査内容

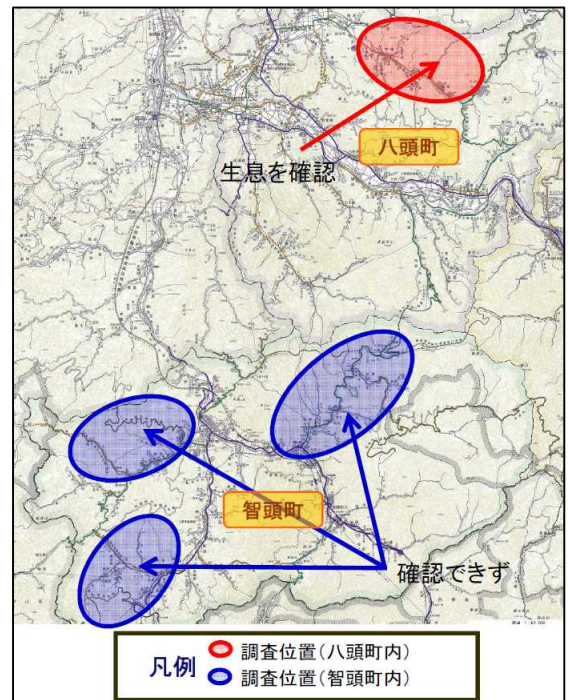
【名称】 オオサンショウウオ生息環境追跡調査

（調査箇所） 八頭管内（智頭町篠坂ほか） 5箇所  
初年度は調査箇所及びその周辺を広域的に調査し、オオサンショウウオの生息並びに繁殖の確認に主眼を置く。

（調査期間） 平成 26～27 年度（2 年間継続）

（委託先） 日本ハンザキ研究所

- （内容） 資料整理 完了
- ・生物生息環境などの情報及び資料整理
  - ・現地調査計画策定
- 現地調査 完了
- ・事業施工後のオオサンショウウオ生物生息状況調査（生物捕獲調査）
  - ・自然環境調査（河川環境調査）
- 調査解析（現在、調査解析中）
- ・生息環境と採用工法の適合性の評価
  - ・採用工法の効果、オオサンショウウオ生息環境への有効性判定
  - ・今後の対応方針についての考察



#### 6 調査検討費用(概算)

（内訳） 調査費:委託料 3,494千円

（平成26年度:1,866千円） 広域的なオオサンショウウオの生息状況の把握

（平成27年度:1,628千円） 工事箇所の利用状況及び移動状況の把握

採用工法の有効性の検証、今後の対応方針の検討

#### 7 中間報告及び今後の予定

平成26年度に調査した智頭町内の千代川支流ではオオサンショウウオを確認できなかったため、平成27年度から八頭町の私都川及びその支流においても調査を実施し、オオサンショウウオの生息を確認した。今後は2ヶ年の調査結果から、オオサンショウウオの生息を確認できた河川と他河川の比較や、巣穴環境と各工法の比較を行い、配慮工法の評価と提案を行う。